

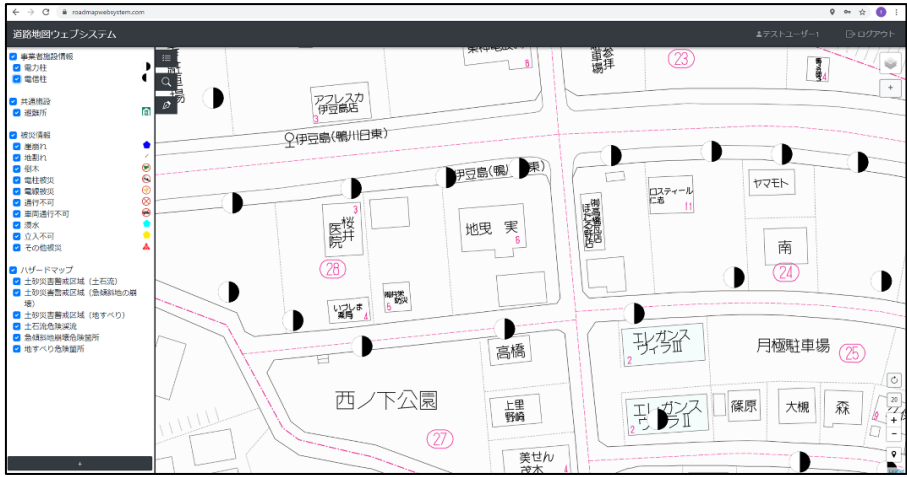
# 【複数年度(1年目)】管理者が異なる道路の地図システムの構築とその活用方策検討社会実験(千葉県)

## 1. 実験概要、留意すべき項目

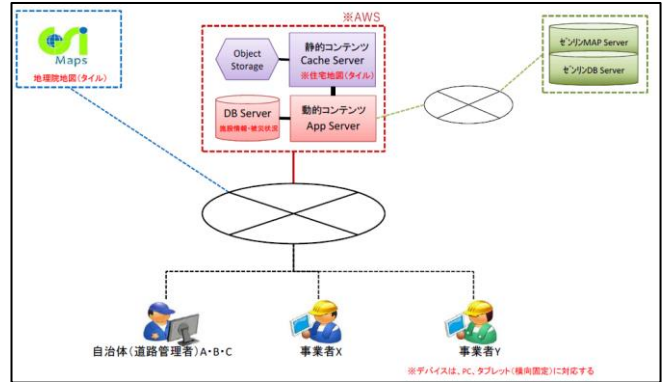
- 多様な管理者の意思疎通が円滑になり、災害時の円滑な避難誘導や被災状況を把握できるように統一地図を作成する。
- 各事業者の情報を一元的に確認できる地図システムが全国的に周知・推奨すべき取組となること。

## 2. 今年度の調査内容、調査結果

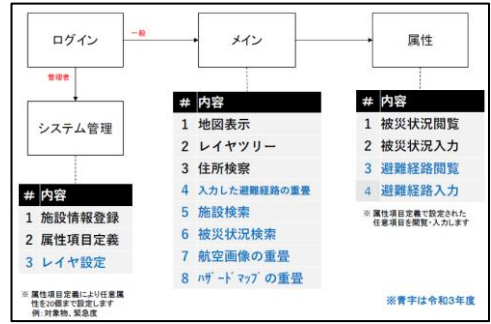
- ① 電柱情報収集 → 東電、NTTの電柱次情報を収集
- ② 地図情報の収集 → 国土地理院、ゼンリンの地図を収集(使用に関する調整)
- ③ ①、②を併せたプラットフォームの作成 ⇒ ④に用いるプラットフォーム作成済み
- ④ 通知情報登録試験、被災現場情報登録試験等、現地実験(3月中旬予定) ⇒ 3月中旬の実験後、中間報告書をリバイス



プラットフォームの画面例



システム構成



画面遷移

## 3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
プラットフォーム機能のテスト、総合テスト	自動表示機能の確認、想定した孤立集落の戸数を確認、印刷機能の確認、自衛隊による入力作業テスト、機能の連携確認
シナリオベースの災害復旧訓練	アンケート調査により、関係機関間のコミュニケーションツールの有効性を確認
シナリオベースの避難誘導訓練	アンケート調査により、住民避難時の誘導経路確認ツールとしての有効性を確認

### 4. 今後のスケジュール

- 令和3年4～9月:プラットフォーム拡充
- 令和3年4～6月:データ検討(追加)
- 令和3年7～9月:データ収集(追加)
- 令和3年10～11月:データ重畳
- 令和3年12月～令和4年1月:訓練(現地実験)
- 令和4年2月:評価

### 5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
ハザードマップを地理院地図で縮尺を合わせて、一元化したときのユーザーを想定してマップを重ねることが大事である。	マップを重畳できる仕様としている。
この実験のコンセプトは電気・ガスが壊れた時に、その道が通れるか通れないかを見せるものであるが、状況はリアルタイムに変えていけないといけないため、このような地図を見せられても、電気ガス事業者は喜ばないし、どのような状況を想定しているのかが不明である。	道路の被災～復旧までの状態遷移を表示できる仕様としており、ライフライン事業者の応急復旧作業計画策定し大きく資するものと考えている。

### 6. 評価

- 今年度中に電柱や地図の情報を収集してプラットフォームを作成しており、3月中旬に第1回現地実験を行う。次年度の実験メニュー、実験内容、スケジュールの検討ができているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。